

大阪における 糖尿病対策 の現状



中石医院
院長 中石 滋雄

大阪における

世界糖尿病デーの企画

2009年11月14日、第3回世界糖尿病デーの企画により大阪城をはじめ海遊館・通天閣など府内数箇所が青色にライトアップされました。夜空に浮き立つ大阪城(写真1)は印象的であり話題になりました。世界糖尿病デーはインスリンを発見したバンティング博士(カナダ)の

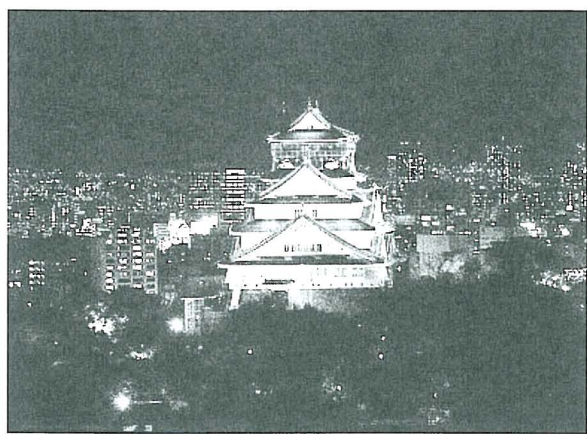


写真1

誕生日を記念して、2006年12月、人類が一致して糖尿病の脅威に立ち向かうことを宣言するために国連が制定した記念日です。シンボルマークであるブルーサークル(写真2)にちなんで世界各地で建物を青くライトアップすることで、国民の糖尿病に対する関心を高め、その予防・早期治療を訴えています。

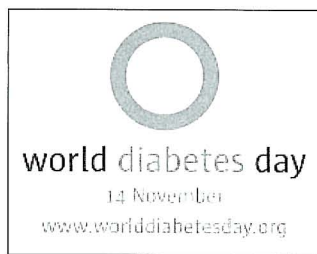


写真2

大阪糖尿病対策推進会議

2009年4月、大阪糖尿病対策推進会議が発展的に組織変更され、名実ともに大阪における糖尿病対策事業において中心的役割を果たすこ

とになりました。大阪糖尿病対策推進会議は、大阪府医師会・大阪府歯科医師会・大阪府薬剤師会・日本糖尿病学会(大阪府担当者)・大阪糖尿病学会の5団体が中心となって構成され、ここに大阪府内科医会・大阪府眼科医会・大阪透析医会・

大阪府・大阪市が協力する形で運営されています。昨年の大阪における世界糖尿病デーの企画も、この大阪糖尿病対策推進会議が中心となって実行されたものです。さかのぼること5年前の2005年に、日本医師会・日本糖尿病学会・日本糖尿病協会が中心となって日本に

写真3

おける糖尿病対策事業をすすめるために日本糖尿病対策推進会議が設立され、のちに国民健康保険中央会・健康保険組合連合会・日本歯科医師会・日本腎臓病学会もこれに参加しました。大阪糖尿病対策推進会議はその下部組織として設置されています。

大阪糖尿病協会

実は、大阪ではずっと以前から草の根活動として糖尿病対策に取り組んできた歴史があります。その中心的役割を果たしてきたのが大阪糖尿病協会です。大阪糖尿病協会は、医療機関ごとに組織された患者会(2010年3月1日現在支部数107支部 会員数3,600人)を医師・栄養士・検査技師などの医療関係者のボランティア組織がささえるという形で運営されています。

たとえば、大阪DMウォークラリーというウォーキングイベントは、身体を動かすことの大切さを啓発するとともに、患者同士のコミュニケーションを促すことがその開催の目的です。第17回大阪DMウォークラリーは2009年10月18日に開催され、大阪府内各地から約400名の糖尿病患者が参加しました。(写真3)また、大阪糖尿病協会はほかにもメディアカルや患者を対象とした多数の企画を開催しています。本年、ボランティア医師の団体である大阪糖尿病協会顧問医会は長年にわたるその活動を評価され、糖尿病に関する啓発・福祉に貢献した人や団体に贈られる「第3回糖尿病療養指導鈴木万平賞」という栄誉ある賞を受賞することが決定しました。私たち関係者はその受賞をとても喜んでいきます。



医師・歯科医師への診療 支援や一般住民への啓発活動

大阪糖尿病協会が、長年、コメディカルと患者を対象に組織的に事業に取り組んできたのに比較して、医師や歯科医師への診療支援事業や被保険者・一般住民に対する啓発事業が組織的に行われてきたとはいえません。広く医療関係者や被保険者・一般住民に対して組織的に支援・啓発活動を行うことが必要であるとの考えから、上記の日本糖尿病対策推進会議が設立され、その方針に沿って日本糖尿病協会は登録医・療養指導医と歯科療養指導医制度を制定し、糖尿病診療においてかかりつけ医を支援する取り組みを始めています。また、保険者の取り組みとして特定健診制度が開始されたことはご存じのとおりです。

さらに地元の医師会の取り組み

力が低いのですから、高齢者の比率が増加している現代において糖尿病患者が増加することは、ある意味、当然のことであるともいえるのです。

わが国

最後に私の考えをすこし述べさせていただきます。糖尿病が国民医療費を圧迫し、有効な対策が求められています。しかしながら、国の「医療費を減らすために」国民は健康にならなければいけない」という考え方に対して私は違和感をぬぐえません。糖尿病の増加は社会のありかたそのものにかかわっているのですから、その対策を考えるには国民生活そのものを広く見直すことが必要です。仕事と余暇のバランスや家族の食事のありかたなど国民生活の基本的なところから健康的な生活を創造することが極めて重要です。

として、私の所属する天王寺医師会では大阪府医師会の助成をえて、楽しみながらウォーキングすることによって糖尿病・生活習慣病を予防するための「天王寺区健康ウォーキングマップ」を作成し、関係機関に配布するとともに医師会ホームページにもアップロードしています。区内のみならず、市内・府内のかたがたにも広くご利用いただいています。

日本人の糖尿病

ここで、日本人の糖尿病の特徴と現状について少し触れてみたいと思います。日本人はインスリンをつくる能力が低い民族であるといわれています。そのため、軽い肥満や少しの運動不足でも、糖尿病になりやすいと考えられます。2007年に実施された国の調査では、糖尿病である可能性が高い人が890万人、糖尿病である可能性を否定できない人

その結果、糖尿病をはじめとする生活習慣病が減少して国民医療費が減少するのであればこんなに素晴らしいことはないと思います。

が1320万人で、合計2210万人と推計されています。1997年にはその両者の合計は1370万人と推計されていましたので、この10年間に実に倍近くにも増えていることになるわけです。いったいなぜ、糖尿病がこんなに増加したのでしょうか。

ひとつめの理由として考えられることは現代人の肥満と運動不足です。特に中高年男性の体重が増加し続けており糖尿病の増加が顕著です。また、生活が便利になり、歩く機会が減少したことから、運動不足の傾向が強まっていることがあげられます。天王寺区医師会が「天王寺区健康ウォーキングマップ」の作成を企画したのもそのような背景によるものです。ふたつめの理由として考えられることは高齢化です。インスリンをつくる能力は年齢とともに低下すると考えられています。日本人はもともとインスリンをつくる能

●参考サイト●

- ◆世界糖尿病デー公式ホームページ
<http://www.wddj.jp/>
- ◆大阪糖尿病対策推進会議ホームページ
<http://www.dm-osaka.jp/>
- ◆大阪糖尿病協会ホームページ
http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/imed1/DM_komon/
- ◆日本糖尿病協会ホームページ
<http://www.nittokyo.or.jp/>
- ◆天王寺区医師会天王寺区健康ウォーキングマップ
(天王寺区医師会ホームページ)
<http://www.tennoji-med.or.jp/walkingmap/index.html>

プロフィール

中石 滋雄 (なかいし しげお)

昭和58年 京都大学医学部卒業 京都大学医学部付属病院・大阪赤十字病院を経て
平成11年4月 中石医院開設 (大阪市天王寺区)
平成18年4月 大阪府医師会理事 (平成20年3月まで)
平成20年4月 大阪糖尿病協会理事 (平成22年3月まで)
日本糖尿病学会専門医・同研修指導医 医学博士